

支え方を 知る

認知症の方は、病による不安から、周りの人との関係を損ねてしまうこともしばしば。そんなとき、身近に暮らす地域の方が認知症を正しく理解し、温かい心で支える気持ちがあれば、本人や家族の穏やかな暮らしを守る事ができます。そのため市では、認知症への理解を深めてもらう「認知症サポーター養成講座」を実施しています。

受講者に
聞きました



おがさわら りょうこ
小笠原 涼子さん

北洋銀行北二十四条支店営業課に勤務。北洋銀行では年1回、認知症サポーター養成講座を含めた研修を実施しており、昨年3月に受講。

「銀行に勤務されていますが、日常の業務の中で認知症の方と接することはありますか。」

「通帳をなくしたと何度も来店される方など、月に数回、認知症と思われるお客さまがいらつしやることもあります。以前は、認知症という言葉は知っていても、接するときには何に気を付けるべきか、よく分かっていなかったように思います。」

「そうした中、「認知症サポーター養成講座」を受講されたのですね。」
「はい。顧客満足向上の一環として実施された行内研修の中にこの講座も組み込まれており、受講しました。認知症の具体的な症状や、認知症の方への接し方などを事例を交えて丁寧に教えてもらい、深く理解することができました。」

「受講した結果、接し方などに変化はありましたか。」

「温かい気持ちで、ご本人の尊厳を守りながら話を聞くことを、より意識するようになりました。例えば通帳をなくしたというお客さまに対しては、「最後に使ったのはいつですか」「いつもどこにしまっていますか」などと尋ね、ご本人の話をじっくり聞いて納得してもらうよう心掛けています。」

「今後、学んだことをどう生かしていきたいですか？」
「札幌市の高齢者の10人に1人が認知症であることを知ったとき、それまでいまひとつ現実感が薄かった認知症という病気が他人事ではないことを痛感しました。今後この病気に対する関心を持ち続けて、困っている方がいればできる限りサポートしていきたいです。」

大切なのは尊厳を守り、
じっくり話を聞くこと。

認知症サポーター養成講座

認知症について学ぶ90分程度の講座。講師を無料で派遣します。



【対象】10人以上の団体

【申込】区役所などで配布中のチラシの裏面に必要事項を記入し、開催希望日の1カ月前までに市役所3階介護保険課へ。

※このほか少人数・個人向けにボランティア研修センター(18歳)で年4回実施しています

認知症の方と接するときの心得 3つの「ない」

- ①驚かせない ②急がせない ③自尊心を傷つけない

特別なことはしなくても、「認知症に対する正しい理解」と「思いやる気持ち」があれば、あなたは認知症サポーターです。認知症の方が周りの状況を把握できない不安と常に戦っていることを理解し、温かく見守る気持ちで接しましょう。